

# 宮城県防災会議 第5回東日本大震災検証・記録専門部会 議 事 要 旨

## 1 専門部会の概要

日 時：平成26年7月23日（水）午前10時から11時10分まで

場 所：宮城県庁行政庁舎11階 第二会議室

出席者：石森 建二 宮城県 総務部理事兼危機管理監

平川 新 宮城学院女子大学 学長

今村 文彦 東北大学災害科学国際研究所 所長（教授）

吉田 隆 東日本電信電話（株）宮城事業部 サービス運営部門長

武藤 徹 東北地方整備局 企画部企画課長補佐

岩井 幸一 陸上自衛隊 第22普通科連隊 第3科長

佐藤 孝志 南三陸町 危機管理課長

花海 秀樹 仙台市消防局 警防部警防課長

## 2 議事次第

- ・開会
- ・あいさつ
- ・議題
  - （1）（仮）「宮城県東日本大震災検証記録誌」（案）について
  - （2）その他
- ・閉会

### 【配布資料】

- ・資料1 （仮）宮城県東日本大震災検証記録誌（案）の構成について
- ・資料2-1 記録誌目次（修正案）
- ・資料2-2 記録誌目次（新旧対照表）
- ・資料3 （仮）宮城県東日本大震災検証記録誌（案） 概要版
- ・資料4 （仮）宮城県東日本大震災検証記録誌タイトル（案）
- ・資料5 （仮）宮城県東日本大震災検証記録誌スケジュール
- ・参考資料 （仮）宮城県東日本大震災検証記録誌作成に係る調査等の経過

## 3 議事要旨

### （1）（仮）「宮城県東日本大震災検証記録誌」（案）について

- 事務局から（仮）「宮城県東日本大震災検証記録誌」（以下、「記録誌」という。）について、資料1に基づき記録誌全体の構成を説明した。

また、資料2-1、2-2に基づき加除修正及び移動した記録誌の目次の項目を、

資料3に基づき記録誌公表後に取りまとめた内容について説明した。

さらに、資料4に基づき記録誌のタイトル案を提案し、資料5に基づき今後のスケジュールを説明した。

- 審議について、最初に資料1から3までの質疑を行い、その後に資料4・5の質疑を行うことで会議が進められた。

- 平川副部長から、資料2-2の目次の新旧対照表において、第10章「東日本大震災の教訓を生かした防災対策の推進」に新たに「結び」が追加されたが、目次案において削除された第7章6の「大震災を振り返って」が「結び」とすべき内容であること、目次のタイトルから見れば、「大震災を振り返って」の内容を「結び」に入れても良いものと思われること、また、この「結び」は全体としての結びの意味もあるならば、項目自体を独立させるべきとの意見があった。

これに関連して、「結び」の文章中、「防災対策には完成型も到達点もなく、また『これだけ行えばもう大丈夫』といった安心感を与えるものであってはならない。常に、最新の科学的知見及び過去の歴史的教訓を踏まえつつ、…」との記述について、防災対策には終わりはないとの意味で記述したことは理解できるが、防災対策には安心感を与えるものであってほしいことから、文章について、「また」以下を削除し、「常に、最新の…」に続けてはどうかとの意見があった。

また、資料3の記録誌概要版の第8章「東日本大震災の教訓」の6「避難所・被災者支援」について、記録誌本冊には記述があるものと思料されるが、女性への配慮やプライバシーの問題等を記述されたいとの意見があった。

このほか、原稿執筆を行った第9章「地震・津波研究と今後の方向性」について、東北大学における取組が記述されているが、他の大学や研究機関においても地震や津波に関する研究は行っているものと思料されることから、東北大学の取組だけの記述で良いのかどうか検討されたいとの意見があった。

事務局から、「大震災を振り返って」については全体の構成も含め、記述内容の精査が必要であること、「結び」の内容について再検討すること、避難所・被災者支援の教訓について女性への配慮やプライバシーの問題等、概要版にも見える形で反映していくこと、地震・津波研究と今後の方向性に係る東北大学以外の取組について、内容を含めて再構成を検討することを説明し、了承いただいた。

- 今村委員から、第9章「地震・津波研究と今後の方向性」の位置付けについて、今回の震災の前にあった「想定」にどのような課題があり、想定外の事項にどのように対応するのかも踏まえ、同章を記述することが望ましいこと、事前の対策を講じてきた中で今回の震災が発生し、様々な教訓を踏まえて第10章の記述がなされているところであり、今後、同様の震災が発生した際、今回のような甚大な被害を

繰り返さない体制となっているのか否かについて、定量的記載は非常に困難なことではあるが、結びの中での記述を検討されたいとの意見があった。

事務局から、46の教訓に対する防災対策の方向性に係る振り返りについて、委員各位に一定の理解が得られるような記述を行う必要があると認識している旨を説明し、石森部会長代理から、教訓から得られた課題等に対する防災対策については市町村も含め、県庁組織を挙げて引き続き取り組んでいく旨を回答し、了承いただいた。

○ 佐藤委員から、本記録誌の内容は南三陸町としても現実的な問題として捉え、課題解決に向けて取り組む必要がある旨の話があった。

○ 平川副部会長から、資料4の記録誌のタイトル案について、「東日本大震災検証記録誌」というタイトルが一番ふさわしいのではないかと、変更するのであれば個人的な案として、「東日本大震災検証記録誌－宮城県における1年間の災害対応－」ではどうかとの意見があった。

事務局から、既に知事から事前の了解を得ており、事務局案を採用させていただきたい旨を説明し、了承いただいた。

○ 今村委員から、市町村の被災状況カルテの中に、復興に係るビジョン（計画）を記述することが望ましい旨の意見があった。

事務局から検討する旨を説明し、了承いただいた。

## （2）その他

○ 平川副部会長から、参考文献やデータに係る公開について検討願いたい旨の意見があった。

事務局から、次回専門部会までに検討する旨を説明し、了承いただいた。

○ 今村委員から、来年3月に仙台で開催される「(第3回)国連防災世界会議」があることから、記録誌概要版の英訳版の作成が望ましい旨の意見があった。

事務局から、作成を予定している旨を説明し、了承いただいた。

－ 終 了 －